

(2) キャンパス教育環境向上プロジェクト

事業計画案概要説明

本学は校地が狭いというハンディとともに3キャンパスに分かれている。財務上の制約もあり現在の施設の継続的使用も不可欠である。そのために、長期修繕計画を導入して既存施設の一層の長寿命化を図るとともに、各キャンパスの状況に応じた早急な施設/設備の計画的更新を目指す。大学の施設・設備は受験生やその父母にとって重要な評価基準となっていることに留意する必要がある。

1. 施設長寿命化及び更新(アメニティ空間の改善)

総合大学となって数多くの女子学生が在籍するようになった現状を見るに、見た目の重要性に加えて、女子専用の着替え室やパウダールーム、学内通路や花壇、くつろぎ空間など様々にアメニティ空間を改善する必要がある。都市大ブランドにふさわしい「あこがれの大学キャンパス空間」とする。そこには、大学の歴史を紹介する展示施設もあり、常に大学の伝統を肌で感じ、この大学に入学して学ぶ誇りを持たせるようにする。

2. グローバル化に対する施設

世界経済のグローバル化に伴い、英語と外国人との接触は仕事のみならず、旅行など様々なところで不可避な状況となっている。教育機関として卒業する学生に語学力や異文化の人との交流経験を学修させることは責務とも言える。教室のみではこれは不可能である。今後は、留学生や外国人教員と交流できる場を提供することが必要である。

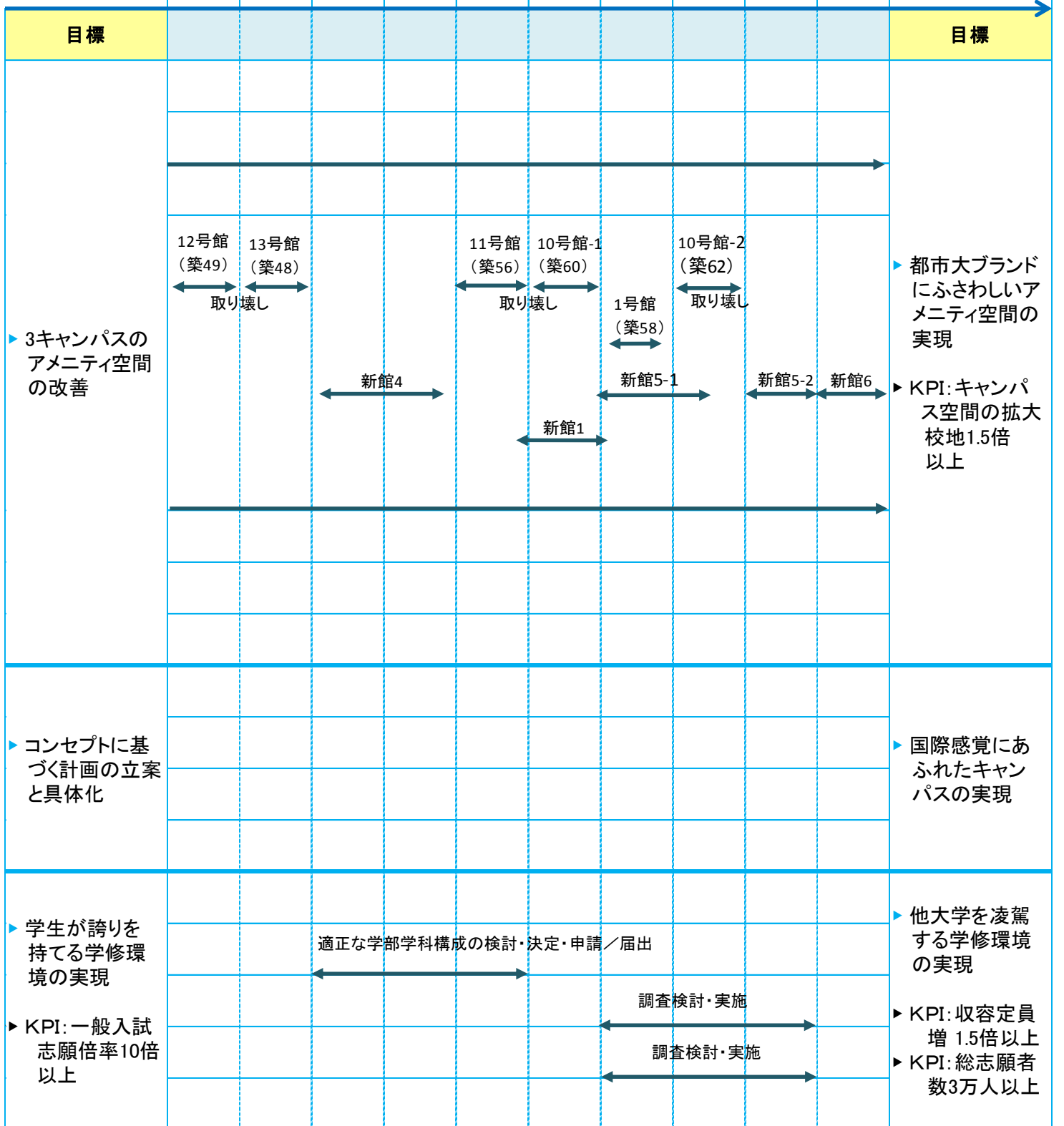
3. 良質な学修環境

本学は実学教育によって伝統を築いてきた。今後とも、時代の変化に対応して柔軟な学部/学科構築へ検討/実施し、真に学生にとって役立つ専門分野を提供する。同時に教育効果を上げるためにも、一般入試方式重視による入学生の質向上に努める。そして、正課活動でも、課外活動でも「学生の第一」をモットーに充実した学生生活への支援に努める。

▶ 90周年

▶ 100周年

2020年度 (7年後) 21 (8年後) 22 (9年後) 23 (10年後) 24 (11年後) 25 (12年後) 26 (13年後) 27 (14年後) 28 (15年後) 29 (16年後) 2030年度 (17年後)



※KPI: key performance indicator (重要業績評価指標)

1. 施設の長寿命化及び更新（アメニティ空間の改善）

| | 目的（実施理由等） | 実施内容 | 予測される効果 |
|---|------------------------|---|--|
| ① 施設の計画的更新 | ■ 教育および研究環境を整備する。 | ■ 取壊し ○SC (7・8・6・12・13・11・10・18号館) * 築50～60年 ○TC(1号館) | ■ 在学生のCS向上 ■ 受験生の応募向上 ■ 社会的認知の向上 ■ 話題性の向上 |
| ② 教育組織の規模に応じたキャンパスの整備 | ■ 安全性を確保する。 | ■ 建替え ○SC 新館1(8000㎡-購入地跡) 新館2(2000㎡-6号館〃) 新館3(2500㎡-6号館〃) 新館4(4000㎡-12・13号館〃) 新館5-1(3000㎡-11号館〃) 新館5-2(3000㎡-10号館〃) 新館6(2000㎡-18号館〃) ○TC 新館1(2000㎡-テニスコート〃) | (主たる学科) エネルギー化学科、自然科学科 電気電子工学科 都市工学科 機械工学科 機械システム工学科 原子力安全工学科 学生クラブ室 児童学科(ピアノ演習室他) |
| ・既存建物の取壊し(SC・TC) ・建物の建替え(SC・TC) ・長寿命化のための大型施設投資 | ■ 経営資源を有効活用する。 | ■ 建物改装・設備更新・修繕 ○SC(既存建物) ○YC(1～5号館) ○TC(2～3号館) | ■ 教育及び研究成果の向上 |
| ③ 統合化されたICTの利用／実践的教育の実現する教育施設設備 | ■ キャンパス間教育及び研究環境を整備する。 | ■ ICT設備導入の検討 実践的教育設備導入の検討 | ■ 教育レベルの向上 |
| ④ 大学の歴史を紹介する展示施設 | ■ 自校の歴史を理解できる施設を作る。 | ■ 新館建築計画において設置の検討 | ■ 学生・教職員の愛校心の高揚 |

2. グローバル化に対応する施設

| | 目的（実施理由等） | 実施内容 | 予測される効果 |
|---------------|--|--|---|
| ① 国際学生会館設置の検討 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 本学国際戦略の方針に基づく国際化を推進する。 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 国際学生会館 ■ インターナショナルキャンパス ■ インターナショナルラウンジ等設置のための検討 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 学生・教職員の国際感覚が養われる。 |
| ② 知的創造のための拠点 | <ul style="list-style-type: none"> ■ キャンパスの一体感を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ■ キャンパスネットワーク整備のための検討 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 対外的好感度の向上 |

3. 良質な学修環境

| | 目的（実施理由等） | 実施内容 | 予測される効果 |
|--------------------------|--|--|---|
| ① 時代に見合った学部学科構築のための検討／実施 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 学部学科体制について、競争力の観点から再検討を行うことにより、時代に見合った学部学科構成とすることで、他大学と同等の社会的位置づけと入学者の質的向上を得ることを目的とする。 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 現在の学部学科構成について、以下のガイドラインに基づき在り方を検討する。 ■ 学科設置のガイドライン <ul style="list-style-type: none"> a) 入学定員 80 名以上 b) 一般入試志願者総数 ÷ 入学定員 = 倍率 10 倍以上 ■ 上記、ガイドラインに該当しない学部学科は再編成の対象とし、再編成を実施する。あるいは新学部学科として設置する等（申請／届出）の実施計画を立案し実行する。 ■ 適正な教員数の確保について検討する。 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 経営的に持続可能な学部学科構成とすることで、安定的な大学経営が可能となる。また、競争優位な体制を創出することにより、ベンチマーク大学と同等の社会的位置づけ（社会的威信）を獲得する。その結果、社会的威信の代理変数である入試難易度が向上することにより入学者の質的向上の効果が見込まれる。 |

3. 良質な学修環境

| | 目的（実施理由等） | 実施内容 | 予測される効果 |
|-----------------------|--|---|--|
| ②充実した学生生活支援 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 課外活動等の支援およびサポートにより、学生の帰属意識を向上させることで都市大グループとしての一体感を涵養する。 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 専門を生かした課外活動（実験教室、ロボット・鳥人間コンテストほか）への活動費補助に加え、組織的なサポート体制を構築する。 ■ 特定のスポーツ（アメリカンフットボール等）の強化を支援するため活動費補助に加え、選手獲得のための入学システムを構築する。 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 学生の帰属意識向上により都市大グループとしての一体感が涵養され、学生が誇りの持てる大学となることで、卒業後も強いつながりを保持することができる。 |
| ③一般入試方式の重視による入学生の質的向上 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 学部学科の再構成により上昇する入試難易度をより安定的に推移させるため、一般入試を重視し、入学者の質的向上を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 志願者数施策 一般入試の方式の増設に加え、出願者の併願件数が増加する仕組みを導入する（併願による特別検定料の拡張等）。 ■ 受験者層施策 難関国公立大学の出願者のインセンティブとなる施策を実施する（学外試験場の増設、奨学金制度等）。 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 一般入試の志願者数と質の安定および向上により、ベンチマーク大学と同等の社会的位置づけ（社会的威信）を獲得する。その結果、社会的威信の代理変数である入試難易度の向上が見込まれ、入学者の質的向上の効果が得られる。 |